



特別展示

生きものの標本展

博物館は収蔵する資料（標本）を基礎に成り立っています。館の仕事として職員が収集（採集）活動を進めますが、実際の博物館資料とくに自然関係の標本は、いわゆる「一般の方々」の努力に拠るところが大きいのが現実です。それは足寄博物館をみればハッキリしています。

しかし、ただやみくもに「もの」を集めればいい、というものでもありません。裏山の草木や動物たちが博物館の標本として後世に伝えられるためにはそれなりの作法・処理が必要です。

「生きものの標本展」は、どのようにすれば博物館の標本として生かすことができるのか、帯広百年記念館の資料を提供していただき、解説いたします。

足寄の自然を未来に伝えたいと願っているみなさんと共に、「標本」について考えてみたいと思います。

期日 平成19年
2月9日（金）
～
26日（月）

会場 足寄動物化石博物館
デスモホール

特別展示のみの観覧は無料です

平成18年度 帯広百年記念館運営連絡協議会移動展

生きものの ひょうほん 標本展

とき 平成19年 2月9日（金）～26日（月）

ところ 足寄動物化石博物館 デスモホール

入場無料

主催 足寄町教育委員会・足寄動物化石博物館・帯広百年記念館運営連絡協議会

特別展示 (続)



生きものの標本展

「生きものの標本展」は、帯広百年記念館運営連絡協議会の事業「移動展」として開催します。同館の学芸員が中心になって集めた資料の一部を展示します。

集めた資料の正確な記録は大切です。いつ(WHEN)、どこで(WHERE)、だれが(WHO)収集したかがわからないと、そのもの(WHAT)が博物館の標本として生かされないことになります。3つのWを記入した「ラベル」は標本と一体のものとしてたいへん重要です。

会場では、哺乳類や鳥類の剥製・骨格をさわって、保存状態などを確認することができます。

身の回りの生きものがどんな標本になるのか、ぜひ確かめてください。

(写真は、タヌキとキツネの剥製、トド・シカの頭骨とカモの剥製)

資料研究

歯のあるヒゲクジラ解明に向けて ミンククジラ胎児の解剖

足寄動物群の歯のあるヒゲクジラ解明のために日本鯨類研究所から提供されたミンククジラ胎児の解剖をすすめています。

1月27日～30日、共同研究者数名があつまって解剖検討会をひらきます。資料は体長64～175cmの胎児の頭部です。

今回は将来展示室で公開する準備をあわせておこないます。

化石工房で作業しています。興味をお持ちの方はご来館下さい。



ミンククジラ頭部
(ものさしは10cm)

休館日 || 2月 6日 13日 20日 27日 の火曜日

博物館の動き 1～2月 (館の行事や職員の動き、来館団体、など)

1月	27日～	ミンククジラ胎児解剖会	2月	9日～26日	特別展示
	30日	(化石工房フォストリーにて)			「生きものの標本展」
2月	2日～	日本古生物学会			(デスモホール)
	4日	(徳島県立博物館にて、澤村参加)			